

LET'S

一般社団法人  
うるわしの桜井をつくる会  
〒633-0091 奈良県桜井市  
桜井1259エルトさくら内  
TEL&FAX:0744-47-3981  
URL: <http://lets.some.jp>  
E-mail: [lets@some.jp](mailto:lets@some.jp)

平成26年2月

# うるわし通信

## まちづくりとロマン主義

大和桜井を故郷とした文芸評論家保田與重郎に次の一文がある。「近代国家に於て、または近代社会に於て、道徳運動は革命や革新の原理たりえないもののやうである。しかし我々のいふ道徳は、観念を組織した教説や理論でなく、生活それ自体である。その唯一の基本的生活としての、米作りの暮らしと、その手仕事の世界は、生活が道徳である状態であり、道徳の実はこの生活を他に於て厳密には存在しないのである。」保田が1961年、安保紛争の翌年に書いた『日本史新論』の一節である。保田は、ここで、労働と道徳とが一体化した米作りの生活こそが文明生活である、とした。政治、経済、文化を含めた近代の制度と規範のすべてを否定する「反近代の思想」の表明である。

保田の一文は、私に19世紀イギリスの批評家・社会思想家ジョン・ラスキンの次のことばを想起させる。「(「慎重」「正義」「勇気」「節制」の4つの枢要な徳性は)単に生そのものを保護し促進する手段であるだけでなく、生の物質的徳の主要な番人ないし根源であり、経済の支配力であり、君主である。」1872年に出版された経済論集『ムネラ・プルヴェリス』の中のことばである。保田は、生活と労働と道徳が不可分であった日本の古制を憧れた点で、そしてラスキンは啓蒙的な合理精神に支えられた近代的な産業機構を厳しく批判した点で、ともにロマン主義的であった。ロマン主義的であるとは、保田のことばを借りて言えば「近代の贅沢を返上する」ことである。物質的な豊かさではなく精神的な豊かさを重視する平和で自由な社会への憧れを語ることである。

私がこの一文を寄せる「うるわし通信」は、「うるわしの桜井をつくる会」の機関誌である。「うるわし」は、誰もが知るとおり、古事記に由来することばである。このことばをまちづくりの組織の名称に冠することは、この組織の活動の原点に古代大和の世界に対する憧憬があったことを示唆する。「うるわし」のことばは、この会が基本的にロマン主義的な運動体であることを含意する。

ラスキンの『ムネラ・プルヴェリス』と保田の『日本史新論』に共通するのは、近代の経済活動における道徳性の衰退に対する批判である。私がこの両書に言及するのは、ロマン主義の全面的再評価を企図してのことではない。日本浪漫派の理論的代弁者であった保田與重郎の思想を言挙げするためでもない。経済活動に道徳性を回復することの重要性を説いた二人のロマン主義者の主張の今日性を言うためである。ロマン主義の精神の今日的意義は、近代化の推進原理であった「成長」の理念に対して批判的距離を取り、成長神話の呪縛からの解放を説くことにある。

「うるわしの桜井をつくる会」には、戦後の日本が歩んできた近代化の歴史を危機意識をもって捉えたロマン主義者の視座を共有することが求められる。「うるわし」のことばが内包するロマン主義的な含意を再確認し、「つくる」ということばに道徳性の含意を回復してほしい。

経済成長を絶対的な目標にしなくても十分な豊かさは実現されるとする「定常型社会」のコンセプトに基づいて、桜井を精神的な豊かさや生活の質の向上を重視する住宅都市へと再生させる取り組みが求められる。まちづくりとは、ユートピア建設をめざすロマン主義的な営為である。

島岡 将

## 第3回新春交流昼食会

1月25日（土）正午より桜井市粟殿の「あるぼ〜る」にて新春交流昼食会を開催しました。当日は34名の参加があり、賑やかな交流会となりました。以下、ご参加いただいた方から感想の言葉をいただきましたので、ご紹介させていただきます。



●今年の新年会はパスしよう、マンネリやしなあ。相撲神社で活躍された藤井さんに、生活学校の人来てくださいよ、人数少ないのでと言われ、彼に頼まれたら、行こうとなり、山口、中澤と3人出席。浅川氏のにこやかな顔もちらつくし。植村さんにもある会議であつて誘われた。井上さんにも、東さんにも、促された。参加して、得るところ大いにあり。着物すがたのかっこいい栄島さんに会い、スナップ写真を撮り、なんと芝さんの奥さんのさわやかなスピーチを聞き、たいした檀家でもない私のところに、平等寺の丸子さんが、挨拶に来られ、恐縮したり、出直し英語の島岡先生に会い、また、面倒見のよい県会議員の和田氏とも会い、それはそれは、楽しい会でした。

庄巻はやはり、相撲甚句ののびやかな声を、じっと聴いたこと。なんと歌の文句は面白い狂言か漫才のネタだった。すごく興味を持った。最後に竹細工の三橋 玄さんから、竹細工のアートの写真が届いた。コミュニケーションの輪が広がった。また一緒に土舞台でイベントしましょう。

桜井市生活学校委員長 小西 笙子

●私は桜井市に住むようになってまだ1年ちょっとの新参者ですが、お声掛けをいただき参加させていただきました。ありがとうございます。普段お出合いできない方々と席を並べられたのは大変貴重な時間でした。私のような若輩者にみなさん親切に声を掛けて下さり、また私の話にも耳を傾けて頂き、感激でした。

お話を伺う中で皆さんが桜井を魅力と活気ある町にしていこう、という気概に溢れていると感じ、自分もがんばろう、と気が引き締まる思いでした。

まだまだ力も経験も不足している私ができることは、失敗を恐れない無謀さをもって柔軟な発想を具体化していく事、また近隣の都市部や若者への発信かと思っています。自分の専門である竹とアートを地域の自然・歴史・文化そして人的資源と結び付けて活動していきたいと思っています。厳しいご意見・批判と暖かいご支援をよろしく願います。

竹アーティスト 三橋 玄

## さくらい万葉歌碑

桜井市には山の辺の道を中心に62基の万葉歌碑があり、その揮毫者は川端康成氏をはじめ、各界の大和をこよなく愛した著名人である。

歌碑調査の第一人者と言われる故田村泰秀氏によると、全国には万葉歌碑が2000か所以上あるという。その中でもこの62基は、万葉集を土地に即して詠まれた場所とのかかわりを考えれば、特に文化的価値が高い第一級の観光資源であるといえる。石碑といえば芭蕉句碑がまた有名で全国に1800か所あるといわれている。

写真は、海石榴市観音堂の辻にある、作家 今東光揮毫の万葉歌碑で、「むらさきは 灰さすものそ つば市の 八十のちまたに 逢える 児（こ；娘）や 誰」万葉集 卷12-3101。原文は「灰さすものそ」であるが石碑は「灰（ほの）さすものそ」となっている。田村氏は冒とくも甚だしい例と非難しているが、いきさつに興味ある方は桜井市公式ホームページにある観光案内万葉歌碑の項参照。なお揮毫原本の展示会が計画されている。 船谷 晴夫



## 郷土愛を育む授業

1月9日（木）三輪小学校の6年生を対象に郷土愛を育む授業「三輪の歴史」についてお話をすることになりました。

始めに池田校長先生から大昔に三輪は日本の都で、現在の東京に当るとお話があり、次に大神神社の平岡権禰宜より、大国主の国造りは海の彼方より光輝いて現れた大物主の助けにより進められ、この際に大物主を大和の三輪山にお祀りする事になったという祭神の大物主についてのお話がありました。



次に、私、藤井は、神武天皇により九州と大和の勢力が融合し、大和を中心とした日本の国家が出来上がった話。第10代崇神天皇の時代に、飢餓の対策として保存食のために三輪素麺を作った事、お酒が醸造された事、金屋のつば市が栄えた事、男女が歌を通じて語らった歌垣が取り行われた事を話しました。

さらに、景行天皇期には、日本武尊が国を制定する際に辞世の歌として詠んだ「大和は国のまほろば たたなづく青垣山ごもれる大和し美し」や、飛鳥期の一時大津に都を移す際に、天皇の守り神であった三輪山を額田王が惜しんで詠んだ「三輪山をしかも隠すか雲だにも 情(こころ)あらなも隠さうべしや」を紹介し、生徒全員が男女に別れて歌垣の形式で唱和しました。お話の後には、当時の航海技術について熱い討議で盛り上がりました。

最後に、卒業される皆が「三輪ってどんな処」と尋ねられたら、「こんなすごい歴史のある処だよ」と、誇りを持ってほしいと、伝えました。 藤井 義晴

## 事務局だより

- 2月の常任理事会は2月22日（土）午後1時30分より「市民活動交流拠点」（まほろばセンター第1研修室）で行います。

## お知らせ

- 図書館友の会の2月読書会は「おろしあ国粹夢譚(井上 靖 著)です。  
日時 2月25日(火)午後1時30分から 参加無料 友の会会員以外の参加も歓迎します。  
場所 まほろばセンター第1研修室 問い合わせ先 浅川 肇：090-1961-6345

- 講演会「相撲発祥の地 桜井市～ふるさとを語る～」  
日時 3月1日（土）午後1時30分～3時（受付 1時～）  
場所 桜井市立纏向小学校 体育館  
講師 植村 幸子さん（元FMハイパーパーソナリティ）  
内容 相撲神社と野見宿禰伝承を考える  
問い合わせ先 桜井市役所人権施策課：0744-42-9111  
◎日常の生活の中で何げなく通り過ぎている故郷の景色。そこは記紀神話と伝承に語られる謎に満ちた古代史の舞台でした。相撲神社や野見宿禰の伝承を通して見えてくる「ふるさと桜井」の古代の姿を、地元住民の目線で語らせていただきます。 植村 幸子



- 映画「じんじん」桜井上映実行委員会  
日時 2月24日（月）午後7時～  
場所 市民活動交流拠点（まほろばセンター第1研修室）  
映画を応援されている方、応援したい方、ご興味のある方、どなたでもご参加下さい。  
参加者には、3月14日（金）に行われる「じんじん」無料試写会招待状を配布いたします。

- 映画「じんじん」無料試写会  
日時 3月14日（金）①午前10時～ ②午後6時30分～  
場所 桜井市立図書館 第一研修室  
参加費 無料（招待状が必要です）  
問い合わせ先 映画「じんじん」桜井上映を応援する会  
代表呼びかけ人 こども読未知（よみち） 福島 千佳  
E-mail chi-mama\_1215\_0311@leto.eonet.ne.jp



- ◎この映画を通して、人とのつながり、親子の絆、大人が子どもに残すべきこと、など、様々なことを考えるきっかけになればと思います。桜井の市民であるわたしたちが、手を取り合って広げていくスローシネマです。みなさまのご協力で桜井上映会を成功させ、桜井市民のつながりを深めていきましょう。いっしょに桜井上映会を盛り上げませんか？ 同時に、ご意見もお待ちしています。 福島 千佳

**編集後記** 読書会で太宰治の『走れメロス』を津軽弁で読むCDを聴いて、方言の持つ音楽的な感覚を改めて知り、それにひきかえ標準語の固さにも気付かされました。終了後の感想会からも知的なエネルギーを頂きました。『走れメロス』は正義と友情の物語ですが、同時に人間の弱さをも物語っています。人間は本来弱者です。弱者の原点に戻って身を寄せ合うことのできる社会を造っていかねば……と。 （あさ）

うるわし通信編集責任者  
〒633-0091  
桜井市桜井142-5-203  
浅川 肇  
TEL090-1961-6345